

当院回復期リハビリ病棟における運営戦略

～第2報 取り組みとその成果～

風晴 俊之¹⁾ 腰塚 洋介¹⁾ 吉田 淳子²⁾ 田中 直子²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに] 昨年の本学会にて当院回復期リハビリ病棟では、在棟日数を延長させることにより稼働率および FIM 利得が向上する可能性を示した。今回、この取り組みを行なった1年間の結果を報告する。

[方法] 平成29年度と平成30年度の入院患者数、在棟日数、稼働率について比較した。また脳血管疾患患者を対象に、平成29年度と平成30年度の在棟日数および FIM 利得について比較した。なお、脳血管疾患患者の比較は Mann-Whitney の U 検定を用いて統計解析を行なった。

[結果] 平成30年度は、平成29年度に比較し平均在棟日数は延長したが入院患者数は少なかった。それにも拘わらず稼働率は前年度比3%以上向上した。脳血管疾患患者は在棟日数が長く ($p < 0.05$)、FIM 利得は 19.8 から 21.2 となったが有意差は認めなかった。

[考察] 在棟日数延長は稼働率と FIM 利得に影響を及ぼすことが示唆された。回復期リハビリ病棟の適切な入院日数および退院時の状態について検討していく必要がある。